

世界が抱える教育問題。

読み書きができないと、夢や未来が描けない。



学校に通えない子ども
約6100万人

読み書きのできない大人
約7億5000万人

UNESCO Global Education Monitoring Report 2017-18

世界には貧困や紛争などが原因で、学校に通えない子どもや、学校に通えなかった大人がたくさんいます。特にアジアは、読み書きができない人＝非識字者が最も多い地域で、実に世界の非識字者の60%以上を占めています。自分が生まれた国の言葉にさえ、壁を感じる人々。その多くが安定した仕事に就けないため、貧困から抜け出せずにいます。



世界寺子屋運動とは？

きょういくで、あしたへいく。



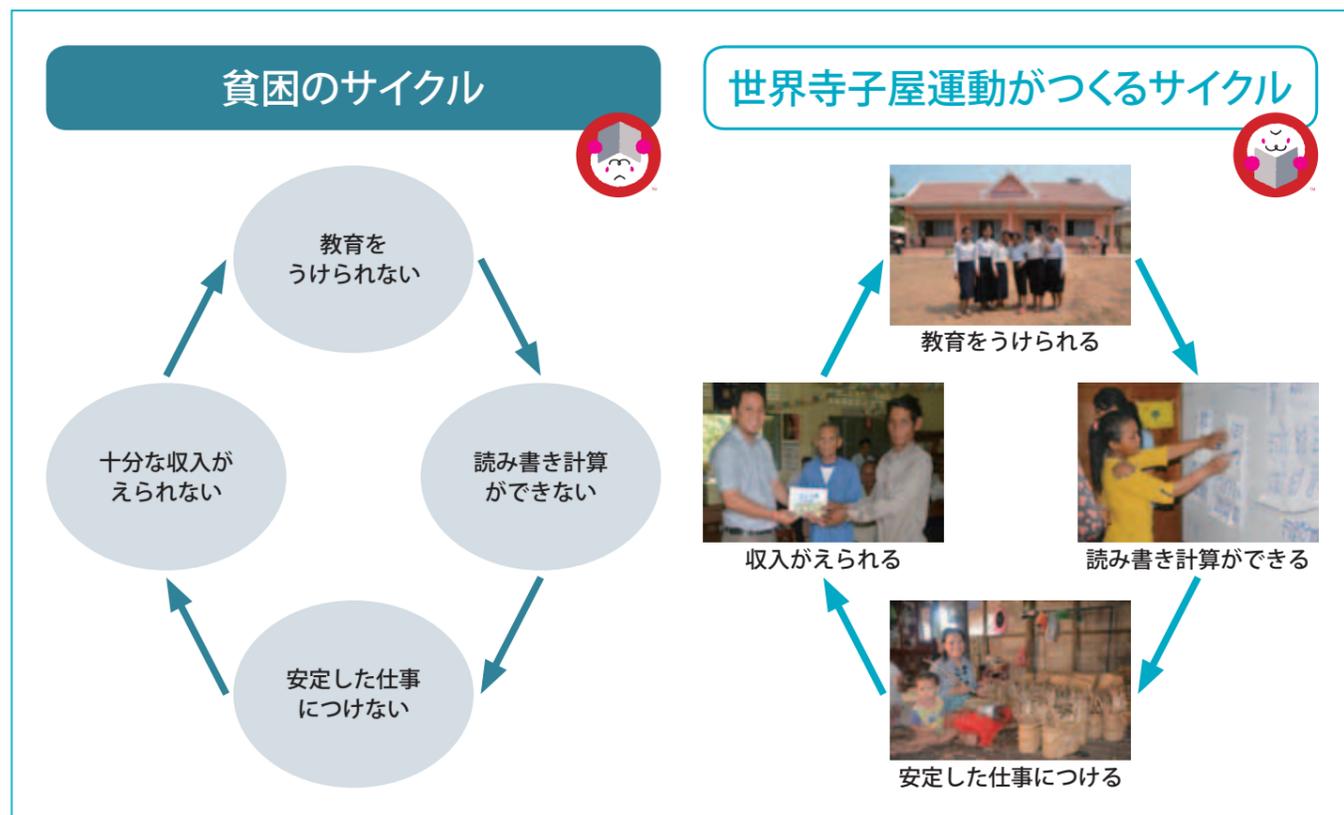
これまでに寺子屋を建てた国
43カ国・1地域

これまでに学んだ人
約130万人

世界寺子屋運動は、発展途上国の貧しい地域に学びの場をつくり、読み書きや生活をよくするための技術を学ぶよう応援する活動です。現在はアフガニスタン、ネパール、カンボジア、ミャンマーの4カ国で、人々が明日を生きる力を育てています。



アフガニスタンの寺子屋で学ぶ子どもたち



久保 純子まなびゲーターの寺子屋訪問レポート



カンボジア 寺子屋に来ていた子どもたちは、まっすぐ黒板をみて、先生の話す言葉を一言たりとも聞き逃してはならないと一生懸命学んでいます。子どもたちに今欲しいものを聞くと、「学校に通うための道が整備されて欲しい」、「文具」など、すべて学校につながることでした。



ネパール 20代から50代までたくさんの女性が通っていました。学習者のピナさんは「寺子屋に通うことで、子どもの教育に力を入れるようになったし、何でも話せる仲間ができた」と話してくれました。寺子屋は「読み書き」を学ぶだけでなく、女性同士が話し合い、自立するための一歩になっています。



少しでも勉強する機会があれば、自分の力で、未来を切り拓くことができるかもしれない。世界寺子屋運動は、貧しさから抜け出し、大人も子どもも平和に暮らせるように学ぶ機会を提供しています。皆様からのご支援が必要です。書きそんじハガキ回収や「月1・いいことプログラム」にぜひご協力ください。よろしくお願いたします。

日本ユネスコ協会連盟
世界寺子屋運動広報大使「まなびゲーター」
くぼ 純子

「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」とは・・・

日本国内の小・中・高校を対象に、子どもたちが世界に目を向け、自分自身で考えそして自立的に行動することを目的に、コンピューターソフトを利用してリーフレットを制作する過程を通じ、「ユネスコ世界寺子屋運動」を学び運動を支援するプロジェクトです。

主催 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
共催 一般社団法人デジタル表現研究会(D-project)
株式会社教育新聞社

プロジェクトウェブサイト
<http://www.unesco.or.jp/support/pj/>
<http://www.d-project.jp/2017/unesco/index.html>